

徳島堰を守る女神

了円寺の七面大明神



七面大明神像

市内の水田に水をたたえるときともに、畑を潤すスプリングラーの水源地ともなり、果樹王国南アルプス市の農業を今も支える徳島堰。江戸時代初期に江戸の商人、徳島兵左衛門（ひょうざえもん）がつくり、有野の名主、矢崎又右衛門（またえもん）が完成させた用水路で、その名は堰の開削を計画した兵左衛門の名に由来します。

この徳島堰の流末近く、飯野新田の了円寺（りょうえんじ）には、徳島兵左衛門が堰を守るために勧請（かんじょう）したと伝えられる七面大明神像があります。日蓮宗において法華経の守護者である七面大明神（七面天女）は、竜の化身であることから、水にまつわるエピソードとともに語られることが多い女神です。兵左衛門が七面大明神を勧請したにはこうした理由があるのでしょう。

なお、寺には、この「七面さん」の勧請に際して、兵左衛門の夢枕に七面大明神が童子と共に現れ、「堰の近くの清浄な地に、七面大明神を安置すれば、流末まで濁水の心配はなくなる」という神勅（しんちやく）を与えたという伝承も残されています。

そして、この「七面さん」が安置される了円寺もま

注
開削……土地を切り開いて道路や運河などを通すこと。 神勅……神のお告げ。
勧請……神仏の分身・分霊を奉納して祭ること。



了円寺の七面堂 山門を入れて真正面に建てられている



伝童子像 七面大明神とともに兵左衛門の夢枕に現れたといわれる童子をかたどったともいわれる



徳島夫妻の位牌



徳島夫妻の墓



徳島堰の流れ 現在も南アルプス市を潤す

た、兵左衛門が、堰の完成を祈って建立したお寺です。山号の随心（信）山、寺号の了円寺も、「事業が心のままに、信するままに、円満に終る」ことを願って兵左衛門自らが命名したものと伝えられています。

このほか、お寺には、七面堂の傍らに、兵左衛門を慕う人々によって建立された兵左衛門夫妻の供養墓、本堂には夫妻の位牌などがのこされ、現在でもゆかりの品々を伝えています。

徳島堰の開削から340年あまり。徳島兵左衛門の思いが託された了円寺の「七面さん」は、いまでも南アルプス市に拓かれた芳醇な農地を見守っています。

辰年の年頭にあたり、竜の化身である了円寺の「七面さん」を紹介しました。皆様が、了円寺の山号・寺号にあるように、潤いのある一年を、想うまま、円満におくることができますよう心よりご祈念申し上げます。